

兵庫県保険医協会第83回評議員会のご案内

2013年4月
兵庫県保険医協会
議長 三根 一乗
理事長 池内 春樹

協会は第82回評議員会後の半年、医療改善や経営対策、会員の身近な要求に応える活動など、様々な活動を行ってきました。2013年度の活動方針を協議するため、標記の会議を開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席いただくようご案内いたします。

■日時 **5月19日(日)13時**～ / ■会場 **兵庫県保険医協会会議室**

13時～ 第83回評議員会
2012年度会務報告と2013年度活動方針案の件
2013年度予算案の件、役員改選、ほか

15時30分～ **特別講演**

「アベノミクスで国民は豊かになるか」

日本金融財政研究所所長 **菊池 英博** 氏



きくち ひでひろ 1936年生まれ。東京大学卒業、旧東京銀行(三菱東京UFJ銀行)入行。国際投融資の企画と推進、銀行経営に従事。ミラノ支店長、豪州東京銀行頭取などを歴任。文京学院大学教授、日本経済財政研究所所長。

自公政権の政権復帰以来、安倍首相は「アベノミクス」と称する経済政策を打ち出しています。その中身は、「大胆な金融緩和」、大型公共事業を復活させる「機動的な財政出動」、規制緩和を中心とした「成長戦略」の3つです。確かに、株式市場や不動産市場は活況を呈しており、「アベノミクス」歓迎ムードも漂っています。一方、「アベノミクス」により物価が上昇しても賃金が上がらなければ国民の生活は良くならないどころか、ますます困難になるとの懸念も広がっています。また、「成長戦略」による労働法制の規制緩和や社会保障費の削減、TPP交渉参加による国民皆保険制度の形骸化など重大な問題が指摘されています。

講師の菊池先生は、バーナンキFRB議長など、アメリカ金融当局高官とも親交ある国際的エコノミストです。是非ともご参加ください。

FAX 078-393-1802 までご返送下さい。

■第83回評議員会

出席します 欠席します

※いずれかに○印を
医科 / 歯科

地区 _____ 氏名 _____

兵庫県保険医協会 650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
TEL078-393-1817 FAX393-1802 組織担当 納富

※なお、当日は神戸まつり開催のため、各所で交通規制が予定されており、会場周辺は混雑が予想されます。なるべくお車でのご来場はお控えいただき、公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

兵庫県保険医協会

259号 2013年4月25日

神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部
連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

医療安全管理研修会「結核の予防と対策」感想文

検査法の認識改めた

神戸支部は3月16日、協会会議室で医療安全管理研修会を開催し、医師・看護師ら25人が参加した。済生会兵庫県病院感染管理認定看護師の小川麻由美氏が「結核の予防と対策」をテーマに講演した。参加者の感想文を紹介する。

今回、医療安全管理研修会が「結核」に関する講演だったので拝聴しました。

結核そのものについては知っていたことが多かったのですが、実際の検査のやり方や患者のマネジメントについては非常に勉強になりました。

まず、従業員を雇用するにあたりクオんティフェロン(以下QFTと略)を実施すべきであるということ。今までは入職時の結核のチェックは胸部レントゲンでしか行っていなかったため、これは驚きでした。また、QFTで陽性であれば、潜在性結核として治療を行うべきであるというお話も衝撃でした。今までの人事管理がいかに甘かったかを思い知らされました。

また、患者管理において、結核患者



25人が参加し、結核の検査やマネジメントについて学んだ

と接触のあった家族などに対するQFTの検査方法も興味深く思いました。今までは接触があった家族は症状やレントゲンを撮り、咳などがなければQFTが陽性化する時期くらいに検査を実施していたのですが、接触より2週間以内にQFTを行いベースとして、後のQFTと比較するという方法を教えていただいたのでこの2回法に変えようと考えています。

本当に役立つ研修を企画して下さった保険医協会には感謝しております。

【灘区 H・T】

会 員 投 稿 かざみどり通信 12



6月1日「地熱エネルギー」講演会へ ぜひご参加を

山中 昭文 先生(東灘区)

<今後のエネルギーどうする?>

私たちの日常生活に安定した電気の供給が必須であることは言うまでもない。しかし3・11の原発事故以降、国内の原子力発電所は次々と停止し、わが国における電源の供給システムを根幹から見直さなければならなくなった。

しかし、結果的に不足する発電量は火力発電に頼らざるを得ず、これによって高価な化石燃料の輸入量が激増し、日本の貿易収支を大いに悪化せしめる原因ともなっている。しかもこれらの火力発電所は、日々大量の地球温暖化ガスを排出し続けているのである。またアベノミクスにより、原発の再稼働も現実味を帯びつつある。

さて、震災以降、国民の間でもエネルギー政策に対する関心が高まり、代替エネルギーとしてのクリーンな再生可能エネルギーについて語られることも多くなってきた。しかし一般によく話題にされる、太陽光によるソーラー発電や風力発電は、エネルギー密度が低く、資産投下の割には出力が小さく、かつ不安定であり、そのためこれらは真夏の昼間のエアコン一斉使用時など、一時的な電源需要増大量のカット、すなわちピークカットにはなり得ても、ベース電源(全発電量のうち昼夜問わず一定量の基礎となる発電方法)である原発や火力発電等の代替電源には現在の科学技術ではなり得ない。また、比較的安定している水力発電は、



わが国ではダムをこれ以上増やすことはできず、小規模水力発電を増やすしか手がない。

一方、昨今、技術力の進歩により採掘可能となったシェールガスやメタンハイドレードなど、比較的安価な新型の化石燃料が取り沙汰されている。しかしこれらは、あくまで、資源に限りがあり、また地球温暖化ガスをも排出する、枯渇性の非クリーンエネルギーであることを忘れてはならない。そもそも原発の燃料や化石燃料には限りがあり、原発は放射性廃棄物を出し、化石燃料は地球温暖化ガスを排出する。

<地熱エネルギーの大きな可能性>

さて、地熱発電は、原子力や火力発電等のベース電源を担うポテンシャルを持ったクリーンかつ、持続的な再生可能エネルギーである。しかし、日本は世界第3位の他国がうらやむほど大量の地熱

----- (3面につづく)

(2面からつづく)-----
資源量を持っているにもかかわらず、わが国での地熱発電を含めた地中熱エネルギーの利用は、遅々として進んでいないのが実状である。

次世代に健全な地球環境を残すためにも、われわれ一般市民が、地中熱エネルギー利用について、わが国最高の地熱学者による講演会によって学習する機会を持つことは、大変意義深いと考えられる。このたび、地熱エネルギー研究の第一人者である江原幸雄先生を神戸にお招きできることになった。一人でも多くの方々に地熱エネルギーについて知っていただきたいと切に願う次第である。

兵庫県保険医協会 新エネルギー学習講演会

地熱エネルギー 利用の現状と今後の展開

日 時 6月1日(土) 14:30~17:00

会 場 保険医協会会議室

参加費 無料 定員 100人

講 師 NPO地熱情報研究所代表

江原 幸雄 先生

(九州大学名誉教授・前地熱学会会長)

テーマ

「地熱エネルギー利用の現状と今後の展開について(冷暖房に用いる地中熱も含む)」

司 会 山中 昭文 先生

(東灘区・山中眼科クリニック)

お問い合わせは、環境・公害対策部

TEL: 078-393-1807 事務局・小西、有本まで

健康と医療について語り合う会

認知症・ボケ・アルツハイマー のちがい~それは私かも~

神戸支部は3月28日、兵庫手話通訳問題研究会「いのちを考える会」に、「健康と医療を考える会」として講師を派遣。支部幹事の西松央一先生(兵庫区・西松医院)が「認知症・ボケ・アルツハイマーのちがい~それは私かも~」をテーマに講演した。聴覚障害者やその家族、手話通訳者ら30人が参加。

西松先生は、「ボケ」は「はっきりせずぼんやりする」という意味であり、病気の状態をさす言葉ではないとし、ボケには健康な老化も認知症も含まれていること、アルツハイマーとは認知症の一類型であることなどを、手話通訳者を介しながら、黒板で文字を示すなど分かりやすく説明。認知症にかかりにくくなるための工夫として、悩み続けない・楽しみを持つ・酒を飲み過ぎないなど10の対策を



支部幹事の西松先生(左)が講演した

示した。

認知症への聴覚障害者の関心は高く、但馬や丹波からの参加者もあり、「ショックなことがあった後の物忘れと認知症の関係は」「iPS細胞の研究で、認知症は治るのか」など、次々と質問が寄せられ、西松先生がユーモアを交えながら回答した。

<参加者からの声>

私も認知症の域に達しているの先生の話が身にしみる思いで聴かせていただきました。普段から酒を飲んで、記憶が途切れることが多いのですが、気を付けたと思います。【参加者・吉倉達男】